

「L.C システム」による景観の色彩表示—岐阜市の都市景観色の考察— The color table of the landscape by L.C system -A case study of the landscape color in the city of Gifu-

有馬多三江 Tamie Arima
荏原 温子 Haruko Ehara
住吉 佳子 Yoshiko Sumiyoshi
富本いちこ Ichiko Tomimoto
ながなわ久子 Hisako Naganawa
萩原 康予 Yasuyo Hagiwara
疋田 千枝 Chie Hikita
蓼島 郁美 Ikumi Minoshima
山中 マキ Maki Yamanaka
林 英光 Hideaki Hayashi

愛知県立芸術大学 The Aichi Pref.Univ.of Fine Arts and Music

キーワード：「L.C 景観色彩表示システム」、
都市景観の色彩、まちづくり

Keywords : L.C system, landscape color,
community planning

1. はじめに

くらしの色彩を考える会、略称「L.C」は、我が国の都市環境が混沌としている状況の中で、色彩により都市景観の秩序を模索し、再構築したいという願いから発足した研究会である。

景観の色彩を採取分析する場合には、部分的ではなく、視野全体を包括的にとらえる必要があり、私達はカラーサンプルによる測色と、感覚的な色彩の見え方の総合的判断を合わせた方法として、「L.C 景観色彩表示システム」（以下、L.C システム）を考案した。

2. 「L.C システム」の説明

私達は、以下の3つの視点に沿って景観の色彩をL.C システムにあてはめ表示した。（表1）

- (1) ランドスケープディスタンス
 - ・広域的な景観距離からの視点
- (2) パブリックディスタンス
 - ・公衆的景観距離からの視点
- (3) パーソナルディスタンス
 - ・個的距離からの視点

L.C システム（図1）の表記方法の特徴は、一目瞭然に景観全体の色彩を把握できる点にある。採取した色彩をカラービーンズ（表示色）に置き換えて、横軸は、左から右へ視野における占有面積の広い順に配置した。また景観のベースカラーとなる色彩を左側に表示し、看板・サイン・ストリートファニチャーなど付随的な色彩はポイントカラー・アイキャッチカラーとして右側に表示した。さらに右下には安全機能関連の色彩を表示した。縦軸は上から下へ部位ごとに、背景色・屋根→壁面→窓・扉・腰壁等→路面の色彩へとマンセル記号で表示した。

3. 岐阜市の都市景観の取り組みの現状

会の最初の試みとして、岐阜市の都市景観を手がかりに、岐阜市の景観の色彩を取り上げた。岐阜市は日本のほぼ中心に位置し、長良川、金華山などの豊かな自然といくつかの歴史的まちなみを併せ持ち、他の都市とは異なる環境条件の中で都市の再生に、様々な取り組みを進めている。戦後の復興と合わせて繊維問屋街として発展しファッションの町として栄えたが、バブル経済崩壊後、中心地から衰退が始まり、昭和40年代以降と比べるとおよそ半分の人口となっている。その為、現在はJR岐阜駅前の再開発として、我が国有数の駅前広場や、福祉施設や商業施設など充実した生活機能を備えた超高層ビル等の建設が進行中で、都市の活性化の為に新しい魅力を図っている。

4. 川原町通りを中心とした考察

会員全員で景観における色彩という観点から岐阜の街を視察し、評価をまとめた。問題点も含め最も意見が多く出た地域が、自然系景観、歴史系景観、観光系景観の要素を併せ持つ、川原町通りと長良川鵜飼乗り場付近の景観であった。

伝統的色彩で統一された川原町通りは、比較的静かな住宅地として存在し、商業的営利を求めない穏やかな佇まいの伝統的町屋の維持と修景の努力は、そこに住まう人々の誇りと文化意識の高さを伺わせる。川原町通りを、パブリックディスタンスの視点で見れば、日本古来の伝統色にみられる茶系や無彩色といったケの色彩で構成されている。そのまちなみは、やや赤味寄りのYR系の低明度・低彩度で、木格子に鈍色の屋根瓦（写真1）と行儀良く並ぶ市松模様の漆喰が穏やかな対比を見せている。背景となる金華山は新緑から紅葉、雪景色まで四季の移ろいの中でその色彩を変化させるが、川原町通りのまちなみと調和し、景観の全体性において静かな自然律を創り出している。パーソナルディスタンスの視点で歩くと、ケの色彩（低彩度色）である町屋の茶

系の木格子と無彩色の屋根を背景に、旧型の朱色の筒型ポスト（写真2）や緋色の和傘など、少量のハレの色彩（高彩度色）が彩りを添える同系色相配色で、道行く人が主役になる美しいまちなみである。しかし、人工的な色彩の案内板や幟などが、鶴飼乗り場付近に設置されていたため、風情を損ねていたのが大変残念である。

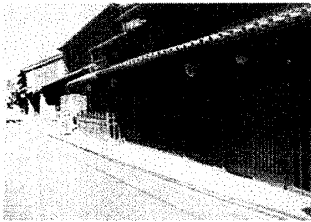


写真1

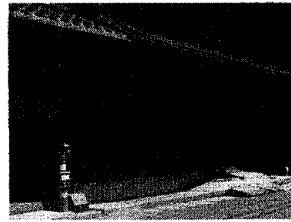


写真2

5. おわりに

現在、都市景観の問題解決には、岐阜市に留まらず、その再生、活性化には様々な方法が試みられているが、我々は景観を包括的にとらえ易い、色彩という概念を通して都市景観全体を考え、そこに暮ら

す人、そこを訪れる人々が心地よく幸せな時を過ごせるような環境の創出を念頭に置き活動に取り組んでいる。景観の色彩は、単色の物理的な測色値だけでは全く意味がなく、景観全体の関係性の中で色彩をどうとらえるかが重要である。今回、岐阜市の都市景観の考察に L.C システムを導入する事により、風景を景観色彩として包括的に捉えることが可能となった。このシステムの表記方法は、色彩の専門家のみならず、誰にでも理解しやすいものであり、都市の景観デザインに大いに役立つと考え、今後もこの L.C システムを用い、都市景観の分析、提案を展開していきたい。

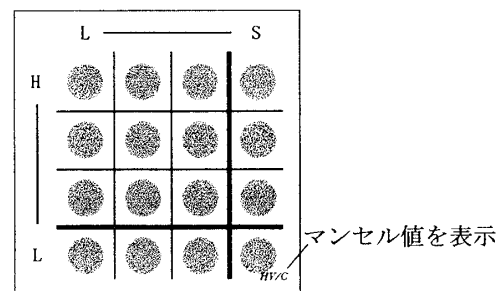


図1 L.C システム

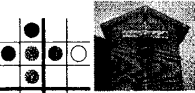
■巨視的景観の色彩 景観距離 (ランドスケープディスタンス)					高評価 ◀▶ 中評価		低評価
							
■町並的景観の色彩 公衆距離 (パブリックディスタンス)				■接触距離的景観の色彩 個的距離 (パーソナルディスタンス)			
1. エクステリアの色彩							
							
2. ファサード看板の色彩							
							
3. ストリートファニチャーの色彩							
							
							
4. 路面の色彩							

表1 L.C システムによる岐阜市の景観の色彩分析と評価